農業技術短報

No. 66, 2010.3
三重県農業研究所
三重県畜産研究所

【目次】

【畜産研究所の施設整備を終えて】……1
【研究成果の紹介】
「前川次郎」に対するフィガロン乳液の着色促進効果……2
加工適性に優れた松阪赤菜の選抜系統……3
小粒大麦「ファイバースノウ」の奨励（認定）品種採用……4
三重県におけるチオファメートメチル剤耐性赤かび病菌の初確認……5
側枝への針金結縛等による「安芸クイーン」の着色促進技術……6
三重県における茶寄生性ミカントゲコナジラミ発生程度の推移……7
両面テープを用いたアカマルカイガラムシ幼虫発生ピークの把握……8
【新品種・特許情報】
品種登録出願　「みえ紀南３号」……9
特許登録　「造粒システムおよび造粒方法」……9
【退任あいさつ】
農業研究所所長　横山幸徳……10
畜産研究所長　余谷行義……10

畜産研究所の施設整備を終えて

畜産研究所　研究管理監　山田　陽稔

畜産研究所は畜産に関する技術の開発と指導という役割を持っています。今回の整備では、旧施設での不備な点を全て解消できるような施設を整えていただきました。今後は農業としての畜産業のあるべき姿を見据えて、三重県の畜産業がその姿に少しでも近づくことが出来るように、新たな技術開発と指導を行っていきます。

畜産研究所には技術の開発と指導という役割と同じくらい重要な役割として、畜産業に対する理解を深めていただく場を提供するということがあげられます。また、33haという広い敷地で仕事をさせていただいていますので、その一部分を活用し、近隣の皆さんや広く県民の皆さんに楽しく遊んでいただく場の提供も大切な役割と考えています。

そのため、従来は本館のロビー、廊下部分を用いて畜産に関するパネルの展示やパンフレットの提供を行ってきました。また、古くは種雄牛舎として利用していた、いかにも牧歌的な畜舎を利用し、山羊、羊とウサギを飼養し、一年中自由に出入りできるふれあいの場を提供してきました。

今回の整備にあたっても、それらの役割を継続し、更に充実させることとしました。

県民の皆さんに気軽に学習し、安心して楽しく遊んでいただける場を設けるため。旧飼料庫を展示コーナーと多目的施設に、また、旧豚舎を改築し展示鶏舎と家畜展示舎を設け、旧養豚エリア全体をふれあいエリアに模様替えしました。

更に、地域住民の皆さんからの要望にあった遊歩道を、ふれあいエリア外周と、畜産研究所内の県道沿いに設け、嬉野中学校の通学路とともに一周約２kmの周遊歩道を設置することができました。

お披露目は４月に入ってからになりますが、それぞれの施設の活用をよろしくお願いいたします。

ふれあいエリア周辺図